

金は四億円（キリンビール三億円、プリンスホテル一億円）で、横浜市が十億円の出資金を計上。事業費総額120億円（キリンが100億円、プリンスと市が各10億円）にのぼる予定。

イベントホールは89年4月オープン（市制百周年）、ホールは多目的型で、国内で唯一、室内陸上競技100メートル直線コースがとれるもの（床面積4万平方メートル）。完成後は、横浜市が新会社に専用使用権を与え、同社が施設賃貸、イベント企画などを行う「横浜スタジアム方式」がとられる。

このイベントホール建設に関しては、①民間施設への公共財の投資の適正さの問題、②スポーツ振興策となじまない、③民間主導の管理・運営による不平等の拡大などが指摘されている。

### 3. 第3グループ (88.2.23)

#### 教課審答申「教育課程の基準の改善について」の検討

藤田 和也

#### I. 答申の全体的特徴と問題点

##### 1. 「臨教審」答申の忠実な具体化

今回の教課審答申（以下「答申」と書く）の基本的な特徴は、「臨教審」答申を教育課程の面で忠実に具体化したものといえる。それは、「答申」が掲げている次の4つの「教育課程の基準の改善のねらい」に端的に表明されている。

- ①豊かな心をもち、たくましく生きる人間の育成
- ②自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成
- ③国民として必要とされる基礎的・基本的な内容を重視し、個性を生かす
- ④国際理解を深め、我が国文化と伝統を尊重する態度の育成

これらは（それぞれのねらいに付された解説も含めて）、いずれも「臨教審」で論議され、答申の中に盛り込まれていたものばかりである。

##### 2. 道徳教育の強化

二つめの特徴は、（これも「臨教審」答申を忠

実に受けて）道徳教育を全般的に強化したことである。現行の体制（学校の全教育活動を通じて行う）を変えずに、内容の「再構成」と「重点化」によって「充実」を図るとしている。「主体性のある日本人の育成」や「道徳的実践の指導」の強調、徳目臭い「内容の重点」説明などに彼らの力の入れ具合が感じられる。

#### 3. 社会科の解体

小学校1、2学年の「生活科」新設（社会科と理科の廃止）、中学3年生の必修社会科の時間数の弾力化、及び高校社会科の解体（地歴科と公民科に分離）などは、第二次大戦後の日本の教育改革が生み出した成果である「社会科」の解体に具体的に着手したといえる。

#### 4. 中学2年から「多様化」

現行の中学3年の選択教科をそのまま2年に下ろし、さらに選択教科に充てる授業時数を大幅に弾力化した。これによって、学校単位で中学2年で「コース」制の導入を可能にした。

#### 5. 「日の丸」掲揚、「君が代」斉唱の強要

中学校社会科で、「国旗及び国歌の意義について理解させ、それらを尊重する態度を育てる」とし、特別活動（儀式）において「日の丸」掲揚と「君が代」斉唱を明確にするとしている。

#### 6. 特別活動を道徳教育の手段に

特別活動における指導の重点が道徳的涵養のみおかれ、自治的活動を育てる観点には全く触れていない。学校行事でも集団宿泊活動、奉仕活動、勤労生産活動などを通して、道徳的実践力を養うことを強調している。

#### II. 体育、保健体育の「改善の基準」

##### 1. 体育

体育では、「生涯体育・スポーツ」と「体力の向上」を重視し、小学校では「各種の運動の基礎的・基本的な能力を」、中学・高校では「生徒の能力・適性等に応じて」内容を改善するとしている。また、小・中・高を通じて「運動の特性」と「履修の弾力化」を強調している点が今回の特徴。目立った変化は、小学校では水泳を1学年早めて

4年生へ下ろしたこと、中学と高校で運動領域を体操、器械運動、陸上競技、水泳、球技、武道、ダンスの6領域に戻したこと（格技を武道に改めたことは周知）、中学校の2学年にも選択の保健体育を置き、授業時数も3学年を105～140時間と幅を持たせたこと、などである。

## 2. 保健

保健では、「改善の基本方針」として、「健康科

学を基盤として」「生涯を通じて」「基礎的・基本的な知識」「自主的に健康な生活を実践する」といったことが強調されている。内容面での大きな変化は、中学校の内容を個人生活面に限定して、社会的な側面を削除したこと、思春期における心身の変化、生活行動と健康、交通事故などを強調していること、高校では現行の4領域に換えて体系性のない6項目をあげていることなどである。

## V. 87年度活動日誌

月 日	報 告 内 容	報告者
4 28	時事問題検討会 1 有明コロシウムと大衆スポーツ問題 臨教審答申『第三次答申』「スポーツと教育」について	川 口 関
5 26	時事問題検討会 2 「積極的産業調整」とレジャースポーツの振興 ちょっと待て、“生涯スポーツ”右見て、左見て、手を上げて、用心深く使いましょう 横浜市のスポーツと横浜市スポーツ振興事業団	高 津 早 川 広 畑
6 23	月例会 1 トレーニング理論の今日的傾向と課題	山 本
7 14	月例会 2 日本における学生スポーツの現状とその問題 —アメリカとの比較より—	柴 崎
10 14	月例会 3 国際労働者スポーツ運動史研究の状況と課題 フランスにおける研究生活の報告	上 野 伊 藤
11 2 ～ 3	秋季箱根研究合宿 テーマ：外国研究の現代的意義 スポーツインターナショナル史研究 —研究の位置・意義と時期区分・特徴— 両大戦間・戦中期のフランスのスポーツ運動について —とくに「体育・スポーツと人民戦線」とレジスタンス組織「SPORT LIBRE（自由スポーツ）」の紹介を中心に— セントポール市（ミネソタ州）におけるコミュニティー・レクリエーション活動の概要とその特徴 在外研究計画（案）	上 野 伊 藤 川 口 早 川
11 24	ゲスト研究会 スポーツとビジネス ～業際的プロジェクト展開～ 講師 加藤 克雄（電通：スポーツ・文化事業局オリンピック室）	
12 15	月例会 4 教科構造（保健と体育との関係）を考える —特に医学史を参考にして—	村 上
1 26	月例会 5 生活の社会化とスポーツーコミュニティスポーツの検討ー	高 津
2 23	時事問題検討会 3 「教課審」答申・「教育課程の基準の改善について」の検討	藤 田